バリアフリー教室　（富山短期大学 幼児教育学科）

北陸信越運輸局

開催概要

日　時：令和８年１０月１５日（木）９：１０～１２：２０
場　所：富山短期大学（富山市願海寺水口４４４）
主　催：北陸信越運輸局
参加者：富山短期大学幼児教育学科　約７１名

　富山短期大学幼児教育学科でバリアフリー教室を実施しました。
　学生は、バリアフリーやユニバーサルデザイン、心のバリアフリーについて学ぶとともに、ノンステップバスやUDタクシーを活用した車椅子乗降体験、高齢者疑似体験、ボッチャ体験を通じて、障害のある方や高齢者の立場への理解を深めました。
　また、公共交通機関を利用する際の課題や必要な配慮について考え、誰もが安心して移動できる共生社会の実現に向けた理解を深める機会となりました。

意見・感想（アンケート回答から）

○車椅子体験
・段差や坂道、バス・タクシーへの乗降が想像以上に大変であることを実感した。
・利用者だけでなく、介助者にも技術や配慮が必要であることが分かった。
・声かけや周囲の支援が安心して移動するために重要だと感じた。

○高齢者疑似体験
・視界が狭くなったり、文字が見えにくくなったりする不便さを体感できた。
・体が重く動きにくくなることで、日常生活の大変さを理解できた。
・高齢者の気持ちや立場を考えるきっかけになった。

○ボッチャ体験
・障害の有無や年齢に関係なく、みんなで楽しめるスポーツだと感じた。
・仲間と協力しながら取り組むことができ、楽しかった。
・誰もが参加しやすい共生社会につながる活動だと思った。

体験の様子










バリアフリー教室　（富山短期大学 幼児教育学科）

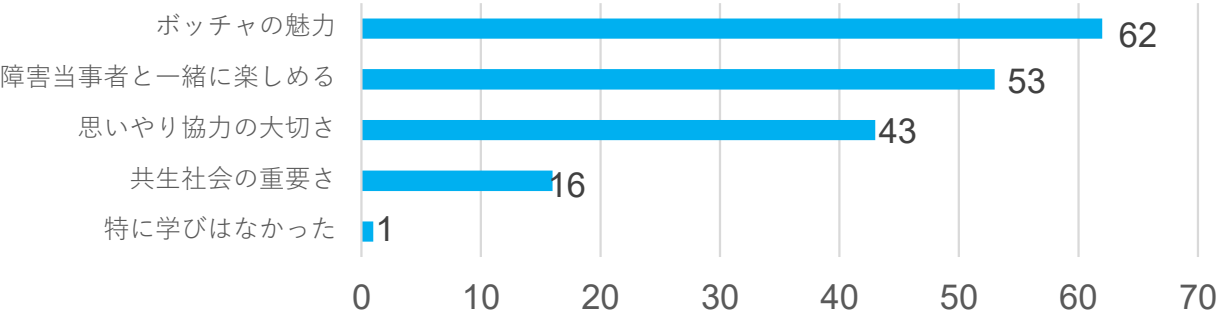
北陸信越運輸局

※各設問の回答者数は同一（N＝６８名）

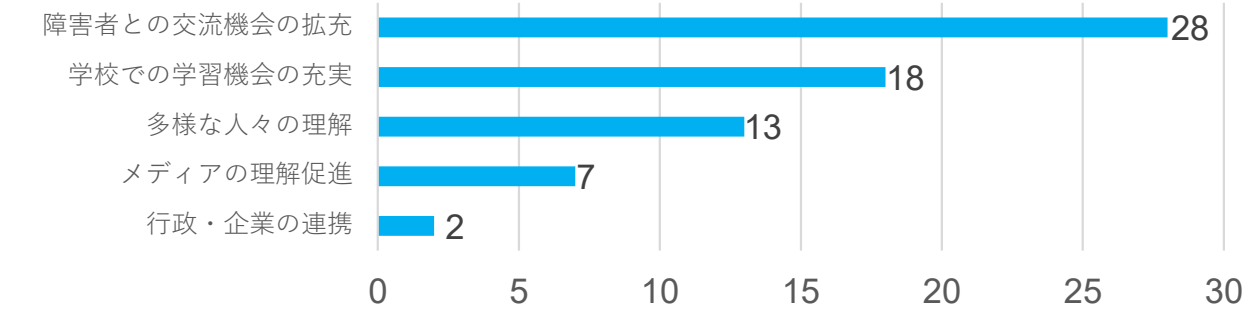
①それぞれの体験の満足度はいかがでしたか。
（１～１０段階評価）



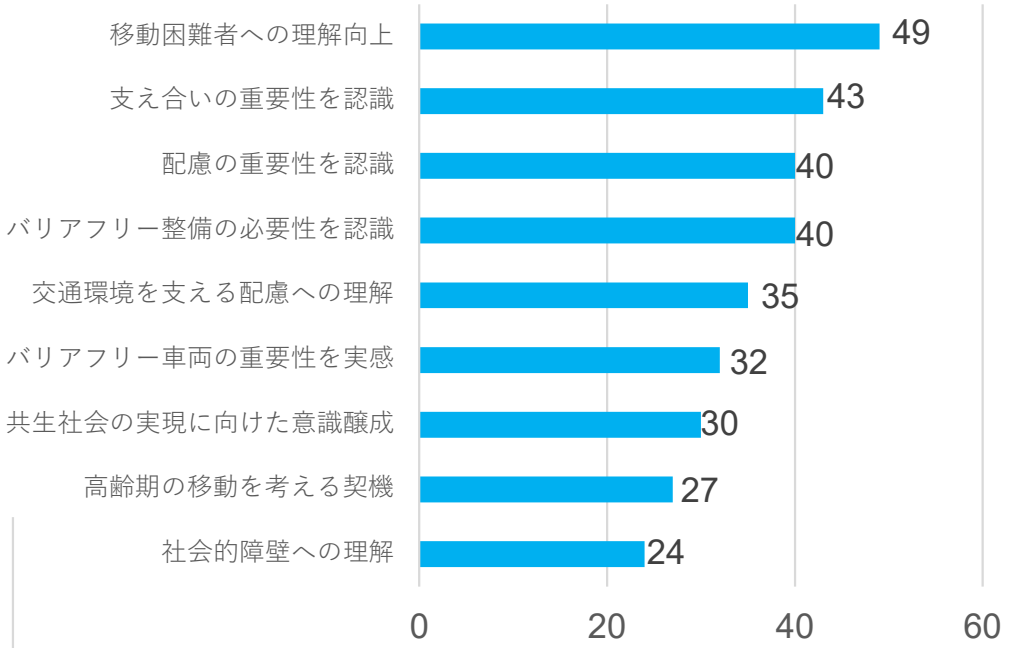
②ボッチャ体験を通じてどのようなことを学べましたか。（複数回答）



③「心のバリア」を取り除くために重要なことは？



④バス・UDタクシー乗降体験の感想は？（複数回答）



○「共生社会」に実現に向けて重要なことは？

- 相手の立場に立って理解し合うこと
- 思いやりの心を持ち、助け合うこと
- 障害のある方や高齢者への理解を深めること
- 障害の有無に関わらず支え合うこと
- 差別や偏見をなくし、多様性を認めること
- バリアフリーや合理的配慮への理解を広げること
- 共生社会の実現に向けて一人ひとりが行動すること